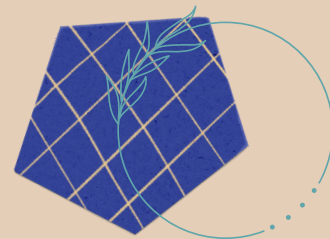


連載 改善の手順 ～QCストーリーとその選択～

第9回 施策実行型QCストーリー ②

須加尾 政一 著



第8回に引き続き、施策実行型QCストーリーの概略を解説していきます。

手順3 目標設定及び活動計画の作成

目標の3要素で目標を設定し、活動を成し遂げるための活動計画を作成します。

実施内容

- 1) 目標の3要素（何を：改善対象、いつまでに：期限、どうする：目標値）を設定します。
- 2) ガントチャートなどを活用して、活動計画を作成します。

手順4 対策の検討と実施

実施内容

- 1) 「対策のねらい所」に基づき、グループのメンバー全員で具体的な対策案（アイデア）を出し、系統立てて整理します。“これは”と思う良いアイデアや優れた意見をもとにして、具体的な対策案を数多く考えます（図10）。
- 2) 対策内容について期待効果、費用、実現性、他への影響等の項目で評価し、対策を実施する順序と役割分担、実施計画を明確にします。
- 3) 対策実施毎に「対策のねらい所」への有効性を確認しておきます。

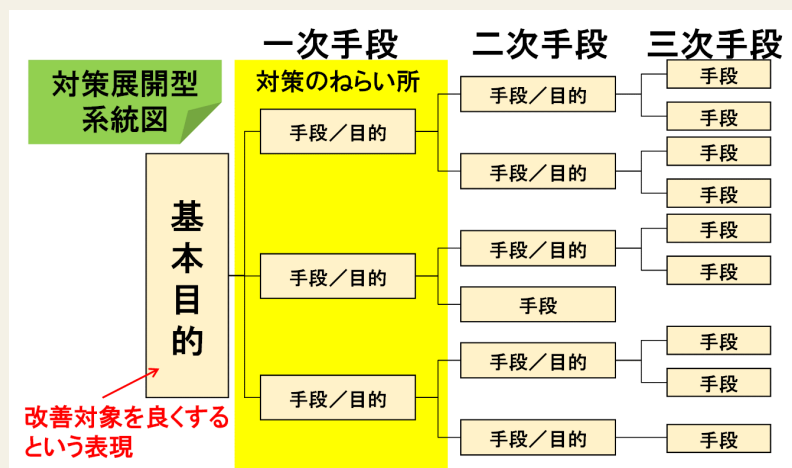


図10 対策案検討のための対策展開型系統図

手順5 効果の確認

問題となっていた改善対象について、実績値がどのように変わったかを調べ、目標に対しての達成度を確認します。

(次ページへつづく)

連載 改善の手順 ～QCストーリーとその選択～

実施内容

- 1)改善によって良くしたかった改善対象が、対策を実施したことによってどのように良くなったのか、目標値と比較しながら効果を確認します。
- 2)効果金額、対策を実施したことによる他への影響や波及効果のみならず、サークルや個人の成長度合いである無形の効果も把握します。

手順6 標準化と管理の定着

効果のあった対策を日常業務のルールの中に組み込み、効果が逆戻りすることを防ぐのが標準化であり、決めたことが守られているか、効果が維持されているかを確認するチェック方法を決め、定期的にチェックする仕組みを構築することが管理の定着です。

実施内容

- 1)実施した対策の中で、効果が認められた対策毎に標準化の制定もしくは改訂を実施します。
- 2)定めた標準について、周知徹底と教育・訓練の実施、関連部署へのPRなどを行います。
- 3)標準の遵守状況や、改善対象などの状況を定期的に確認し、維持していくための仕組みを構築します。改善の効果を長続きさせるために仕組み化を図っている「標準化と管理の定着」の例を表7に示します。

表7 標準化と管理の定着

対策名	対策概要	標準の制定/改訂	周知徹底	対策の維持管理
三重処理の一本化	部全体を1人で担当する	勤怠管理作業標準書の改訂(3月25日) No. SD-2135	部内メンバーへの説明会実施(3月30日) 新人へは標準書を用いて担当者より説明する	各課で同じ処理をしていないか、勤怠締め日に担当者がチェックする
OA化により担当者1人で集計	勤怠管理フォーマットを作成し、担当者1人で作業できるようにOA化する	部勤怠管理作業マニュアルの制定(3月25日) No. M-3001	事務担当者への説明会実施(4月5日) 新事務担当者へはマニュアルを用いて担当者より説明	勤怠管理の運営状況を部長が輪番制で確認する

<参考文献>

- ・細谷克也、須加尾政一、他(2000)：『すぐわかる問題解決法』、日科技連出版社



著者紹介

須加尾 政一 (すがおまさかず)

日本科学技術連盟 嘱託/Q&SGA研究所代表

日本科学技術連盟 QCサークルセミナー運営委員会委員、QCサークル推進者コース運営小委員会委員、QCサークル指導士資格審査委員会委員、若葉マークのためのQCサークル体験教室運営小委員会委員長、職場の問題解決力レベルアップコース、QCサークルリーダーコース、徹底した現状把握から改善につなげる施策実行型セミナー、品質管理セミナーベーシックコースなどの講師。QCサークル本部認定指導員、QCサークル本部認定講師、『QCサークル』誌編集副委員長、日本福祉施設士会福祉QC指導講師。

東京農工大学工学部修士課程卒業(1983年)、小西六写真工業株式会社(現在のコニカミノルタ株)を経て現職。主な著書：『すぐわかる問題解決法』(2000年)、『はじめて挑戦! QC検定3級 短期集中講座』(2018年)、など多数。